

令和 4 年度

二級水系流域治水協議会

県管理河川大規模氾濫に関する減災対策協議会

2 市町の取組について

- ・伊万里市
- ・有田町

■伊万里市防災パトロール【伊万里市】 継続

- 地元から提出された災害危険箇所の調査を行い、雨季前に危険箇所の状況や今後の対応などについて地元と共有を図った。
- 市、伊万里消防署、伊万里警察署、伊万里農林事務所、伊万里土木事務所、地元区長などで災害危険箇所の現状把握を行う伊万里市防災パトロールを行った。



楠久津地区浸水対策事業の現場で説明を受ける様子

■ 伊万里市防災パトロールによる効果

- ① 雨期前に市、行政区双方で災害危険箇所を把握することで、災害被害の軽減が期待できる。
- ② 災害対応における防災関係機関相互の協力体制の確認を行うことができた。

■ 今後の取り組み

- ① 継続実施する。

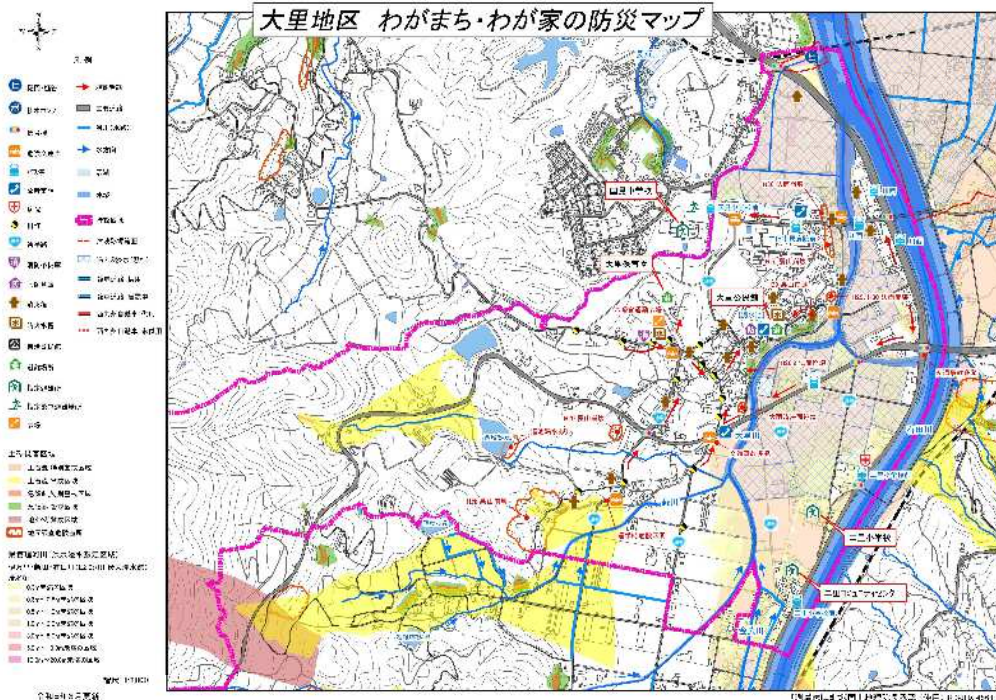
①水防意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【水害リスク情報の共有】

■わがまち・わが家の防災マップの見直し及び全戸配布【伊万里市】

継続

○ 平成24年度～平成26年度に、土砂災害危険区域や河川の洪水浸水想定区域のほか、各行政区において設定した避難場所や避難経路、地区が把握している危険箇所、過去に発生した浸水の実績などの情報を地図に表示して作製した「わがまち・わが家の防災マップ」を、最新の情報にアップデートして、全戸配布した。



防災マップの使い方

この防災マップは、1枚のマップに土砂災害危険区域や河川の洪水浸水想定区域、建造物の浸水想定区域を表示しているほか、各行政区において設定した避難場所や避難経路、地区が把握している危険箇所、過去に発生した浸水の実績などの情報を表示した、それぞれが地域の要項に合わせた防災マップとなっています。
日頃からこの防災マップを使って、自宅周辺や通勤・通学経路などにある危険区域、いざという時の避難場所などを確認し、災害に備えておきましょう。

手順1 自分の家の位置を確認してください

- ・防災マップには、土砂災害が想定される浸水危険などの危険区域がいくつも色別に表示されています。
- ・自分が住んでいる場所上、どのような土砂災害や水害の危険があるかを把握しましょう。

手順2 避難場所を確認してください

- ・防災マップと、自分の家から近い避難場所を確認してください。

※避難場所は、自治体などによって決定した場所と、各コミュニティセンターや公民館などの指定避難場所があります。

※市の指定避難所（※）は、現在3ヵ所ありますが、気象状況によっては全てが利用できない場合があります。市からの情報（避難時連絡状況）を確認してから避難するよう心がけてください。

※大規模な気象警報が発令されたときは、市がコミュニティセンターを自主避難所として開設します。

手順3 避難ルートを考えてみてください

- ・防災マップの避難ルートを確認し、実際に避難場所へ行くルートを確認し、安全と確認しやすい経路を事前に確認しておきましょう。

手順4 防災マップを貼ってください

- ・この防災マップを、玄関に貼って置きましょう。
- ・いざというときには、この防災マップを持って、避難所へスムーズに行けるようにしましょう。

手順5 積極的に気象情報や避難情報などを収集してください

- ・自治体大車などのときに、防災行政無線のほかに、テレビ、ラジオ、インターネットなどで気象情報や避難情報を入手しましょう。
- ※他府県が提供している「防災ネットあんあん」のアプリをダウンロードして登録することで、気象情報や市からの情報（避難情報など）が携帯端末へ届きます。

「防災ネットあんあん」アプリのダウンロード方法

App StoreまたはGoogle Playストアで「防災ネットあんあん」を検索するか、下のQRコードを読み込んでスマートフォンからダウンロードしてください。

iPhoneをご利用の方



App Store

Androidをご利用の方



Google Play

【問い合わせ先】
伊万里市 総務部 防災危機管理課
TEL：0955-23-2130

■ わがまち・わが家の防災マップの見直し及び全戸配布による効果
自身が居住する地区に存在する土砂災害警戒区域等の災害危険箇所について、最新の情報を掲載した防災マップの配布により改めて確認することで、災害時の避難経路や避難先など平常時からの備えに繋がることが期待される。

■ 今後の取り組み
各地区で、防災マップを活用した避難訓練などを実施するよう地区防災会を指導していく。

①水防意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【防災意識の啓発】

■市ホームページ、広報紙等を活用した防災に関する啓発活動

【伊万里市】

継続

【出前講座】

- 各種団体等からの申込みにより出前講座を実施。
- 令和4年度は4団体69名に対して市の防災体制や平時、災害時の市民の対応等について説明した。
- 市内在住の外国人に対する防災教育として、災害時の市からの情報の入手方法や防災マップを活用して、平常時に災害危険箇所や避難場所等を確認することなど「動画」や「やさしい日本語」を使って説明した。

【市ホームページ】

- 自然災害全般に関することや、河川・土砂災害のハザードマップなどを掲載している。

【広報紙等】

- 6月号の「広報いまり」に防災特集を掲載し、災害時や緊急時の情報伝達手段など市民に周知した。



避難情報について説明する様子(黒川コミュニティセンター)

2. いつ逃げればいいのか？

緊急安全確保▶	命が危ないです。今いる建物の安全な場所や近くの安全な建物にすぐに行きます。
<レベル4までに必ず安全な場所に逃げます。>	
避難指示▶	危ない場所からすぐに逃げます。安全な場所に行きます。
高齢者等避難▶	おじいさんやおばあさんや子どもなど、逃げるのに時間がかかる人は逃げます。 その他の人は逃げる準備をします。
注意報等▶	「わがまち・わが家の防災マップ」で逃げる道と場所を考えます。

やさしい日本語を使った出前講座資料の一部

■ 出前講座、市ホームページを活用した防災に関する啓発活動による効果

- ① 市民の防災意識や知識の向上に寄与した。
- ② 地域防災力の向上に寄与した。

■今後の取り組み

- ① 継続実施する。

2. ソフト対策

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進する為の取組

【水害リスク情報の共有】

【防災意識の啓発】

【有田町】

①.①水害リスク情報を共有できるハザードマップへの改良と周知及び活用の推進 【有田町】

①.③防災意識向上と迅速な避難に役立つマイ防災マップづくりと拡充 【有田町】

- 平成30年度に町内の土砂災害警戒区域等の指定及び有田川の浸水想定区域の公表が完了し、令和元年度に有田町防災マップを作成のうえ全戸配布し、ホームページでも公開している。
- 町指定の緊急避難場所や自治公民館、消防格納庫、町内の小中高等学校の区域をカバーするA1サイズのハザードマップを配布・掲示して地域のリスク情報を周知している。
- Web版ハザードマップにより自宅や勤務先等必要に応じた縮尺でマイ防災マップが作成可能となった。
- 令和3年度の改訂で、避難情報の更新（避難指示・高齢者等避難…）、ダム（竜門ダム・有田ダム）の越水ハザードマップの追加を行った。

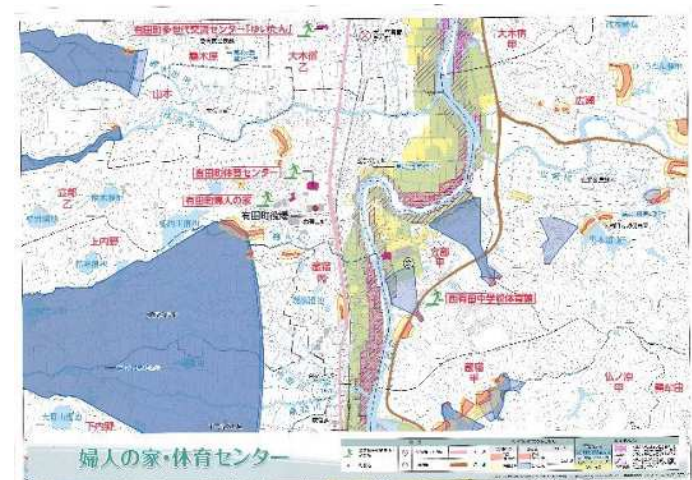


有田町
令和4年2月改訂

↑ハザードマップ（令和4年2月改訂版）



↑ダムの越水ハザードマップのページ



↑公共施設や自治公民館配布用マップ

成果

- 縮尺が大きくなり、地域の細部まで確認できるようになった。
- 地域防災の中核である消防団格納庫にて地域のリスク情報を把握できるようになった。

課題・今後の予定

- 町民の防災意識を高めるため、今後も住民説明会や防災訓練等の機会を活用し、ハザードマップを利用して、啓蒙活動を行いたい。

2. ソフト対策

- ①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進する為の取組
- ②地域住民・市民団体・関係機関の連携・協同による地域の将来を担う人材の教育・発掘に向けた取組

【防災意識の啓発】
【長期浸水リスクの周知】

- ①.⑤ ②.⑤水防災教育、出前講座等を活用した講習会の実施【有田町】
- ②.⑦関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化【有田町】
- ②.⑧自主防災組織、水防団、防災リーダーの育成強化【有田町】

- 地区で開催される会議等において、防災研修を実施した。
- 自主防災組織連絡協議会を結成し、組織間の情報共有体制の整備を図ることにより、町の防災体制の充実強化に努めた。また、消防団や防災士にも呼び掛け、防災研修会を実施した。
- 防災研修会は、生涯学習講座と合同で行い、気象予報士の方から、気象の基礎、避難の際の判断基準等について学んだ。

成果

- この地域の気象の特徴や意外と知らない気象の基礎について学ぶことができ、日頃の準備や避難行動等を行う際の参考になった。

課題

- ハード整備により、大規模災害を経験した住民が少なくなってきたおり、逃げ遅れを防ぐためにも防災教育は繰り返し行い、防災意識の啓発が重要である。
- 出前講座等を実施できる職員を養成する必要がある。

今後の予定

- 自主防災組織や消防団、関係機関と連携して、避難訓練や地区防災会議等必要や要請に応じて、出向いて防災教育を実施していく。
- 児童等に対する防災教育も関係機関と連携をとって実施していく。
- 今後も自主防災組織連絡協議会を中心に、避難所運営についての研修を行ったり、組織間の連携体制及び協力体制の充実強化を図る。



自主防災組織連絡協議会（R4.11.6実施）



自主防災リーダー研修会（R4.11.6実施）

2. ソフト対策

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進する為の取組

【避難行動に繋がる訓練】

【河川巡視情報の共有】

①.⑬水害リスクが高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施【有田町】

①.⑭重要水防箇所共同点検【有田町】

- 区長へ地域の危険箇所について、情報提供してもらい関係機関（平成30年度より伊万里土木事務所からも参加）と合同で、住民立会のもと6月2日（木）に防災パトロールを実施した。地域から要望があった5箇所の確認を実施した。



防災パトロール（6/2（木））の様子

成果

- 雨期前に町と関係機関や地域住民で危険箇所を把握することで危機管理意識を共有できた。

課題

- 民地の管理不足による危険箇所が多く、行政として即座に対応できる箇所は少ない。
- 区長からの情報提供が減っている。

今後の予定

- 今後も情報提供を依頼し、継続して実施する。